

教育講演

企業における新型インフルエンザ対策と産業医の役割

座長 後藤 義人

最近、医師以外の参加者が多い学会に行く機会がありました。今回のプライマリ・ケア学会も薬剤師、看護・介護関係の方々の出席が多い学会でした。毎週のように学会、研修会、談話会などが日常的に開催されている私たちにとって少しマンネリ化したイメージがあるのですが、他の職種のかたがたの真剣な参加態度と少しでも何かを吸収して帰ろうとする姿勢は、自分の態度を反省するよい機会になりました。

座長をさせていただきました産業保健の研修会では、企業におけるインフルエンザ対策について大阪ガス人事部健康開発センター産業医の濱田千雅先生に御講演いただきました。厚生労働省など行政がインフルエンザ対策について曖昧で抽象的な表現にとどめている中、ライフラインを担う企

業の社会的責任と従業員の健康を守ることの相対する問題も含め、情報管理から従業員への啓発活動、インフルエンザ発症者及び家族内発症者への対応など時系列での対策の変化について具体的に御講演いただきました。初期に作成された行動計画に対し問題点を抽出し、客観的な評価のもとに改善計画を速やかに実施するその過程についても詳細に解説をしていただきました。既存のマニュアルどおり実行すれば何とか義務が果たせたと納得しがちですが、各企業にあった対策を講じることが必要です。私たちが囑託産業医として今後インフルエンザ対策をおこなうにあたり大変有意義な講演でした。

